

存在表現における中国語の「着」構文と日本語の「てある」構文の対応について*

鄭 汀

上海对外貿易学院

本稿は中日両言語の存在表現における「着」構文と「てある」構文の対応について影山(1996,2001,2009)の動詞の意味構造に基づき分析比較したものである。「着」構文と「てある」構文の対応関係を明らかにするためにはその動詞の意味構造を考察することが必要である。動詞の意味の体系についてはさまざまな考え方があがるが、本稿では、両言語の動詞の意味を影山の<行為>→<変化>→<状態>という行為連鎖の観点から考察する。なぜなら両言語の存在表現の対応関係を同じ概念構造において比較することがその違いや共通点より明確に現れるだけでなく、その枠組みの有用性と限界を明らかにすることも可能となるからである。

1. はじめに

ある場所にあるものが何らかの状態で存在するという中国語の「着」構文は、よく日本語の「てある」構文に訳される。

- (1) a. 墙上 贴着 广告画。
壁にポスターが貼ってある。
- b. 名册上 写着 毕业生的名字。
名簿に卒業生の名前が書いてある。

(1a)を見ると両構文は、どちらも動作主が対象に働きかけ、その動作「貼／貼る」の結果として、対象の「广告画／ポス

* 本論文執筆に当たって、昨年日本滞在中に幸いに長谷川信子先生に影山(2001,2009)の動詞の意味構造などを直接ご指導いただき、その後私の書いた草稿もたいへんご丁寧にチェックしていただき、数多くの有益なコメントをくださったことを心より深くお礼申し上げます。

ター」がもとの場所から移動し「壁」に到達しそこに存在するという表現である。一方、(1b)の「写／書く」は動作主の働きかけによって新たな対象が出現しそこに存在するという意味で使われている「着」構文と「てある」構文にも対応していることがわかる。ただ、日本語では、一般的に人・モノの存在場所は「に」、出来事・動作の行われる場所は「で」によって表されるが、これに対して、中国語は場所の格成分を持たないため、一般的に、名詞に“上／下／里／外／前／后”などの空間名詞をつけて、場所を表す。例えば、(1a)の場所句「墙上」は「墙（壁）」に「上」という空間名詞が組み合わさった表現である。

しかし、(2)(3)から分かるように、日本語の「てある」構文が常に中国語の「着」構文と対応するわけではない。

- (2) a. 庭に犬小屋が作ってある。
b. *院子里 做着 (一个)狗屋。
c. 院子里 做了 (一个)狗屋。
- (3) a. 軽井沢に別荘がたくさん建ててある。
b. *軽井沢 建着 很多別荘。
c. 軽井沢 建了 很多別荘。

例文(2)での「犬小屋を作る」という行為は、その対象である「犬小屋」の出現だけでなく、その結果の出現位置も導入でき、日本語では(1)の「てある」と同様に扱うことができる。これに対して、中国語の「做(一个)狗屋」というのは「犬小屋を作る」という動作の完了したことが完了アスペクト助詞「了」によって示されるだけで、その結果状態の持続を意味する「着」構文は用いることができないのである。

このことから、「着」構文と「てある」構文の対応関係を明らかにするためには、動詞の意味とその構文形式との密接な関わりを考察することが必要であることが分かる。動詞の意

る。¹

- (6) a. *肩が叩いてある。
b. *橋が渡ってある。
c. テーブルに朝食が並べてある。
d. 庭に穴が掘ってある。
e. 魚が蒸してある。

日本語において、存在表現との関連で「てある」構文に出現するのは、(6c)のような、典型的な位置変化を表す他動詞のほか、(6d)のような、行為の結果の状態として対象が出現し、その位置を表す一部の状態変化動詞が含まれる。(7)にもう少し例をあげる。

- (7) a. 位置変化他動詞：
「置く、掛ける、並べる、飾る、入れる、敷く、植える、のせる、移す」
b. 状態変化他動詞：
「建てる、つくる、塗る、掘る、書く、刻む、印刷する、冷やす」

(7a)は対象の位置変化を起こす他動詞で、設置動詞に代表されるものが特徴である。これらの動詞は、「てある」構文において、行為の x が対象の y を場所の z に動かすことによって y が z の位置にあるという意味を表すので、「～に～が～てある」構文になることが多い。一方、(7b)は、対象の状態変化を起こしたり、新たな対象物を作成・出現させたりするといった意味を含む他動詞の類である。この種の動詞は、「てある」構文において示された行為の結果状態は、新たな対象が

¹ これら(6c-e)の「てある」構文のうち、(6e)のような、動作の結果状態に焦点が当てられるという意味で使われる「てある」構文は、本稿で扱う存在表現との関連性がないため、以下では考察の対象から外すことにする。

出現すると同時にその出現位置も生じるため、位置変化動詞と同様に場所格「に」がしばしば導入されることになる。つまり、(8a)のような、対象の位置変化を表す動詞が場所格「に」を伴うのと同様に、(8b)~(8d)のような、結果位置を伴う状態変化動詞も場合によっては、場所格「に」が必要とされるのである。

- (8) a. 玄関に傘が置いてある。
 b. 椅子にペンキが塗ってある。
 c. 説明書に使い方が書いてある。
 d. 玄関にシューズクロゼットが作ってある。

上記の例を影山の行為連鎖の意味構造で表すと、次のようになる。

- (9) a. <行為> →> <変化> →> <結果位置>
 行為者 x が対象 y
 を場所 z に置く y が z に移動する y が z に存在する
 b. <行為> →> <変化> →> <結果位置>
 行為者 x が対象 y
 を場所 z に塗る y が z に付着する y が z に存在する
 c. <行為> →> <変化> →> <結果位置>
 行為者 x が対象(y)²
 を場所 z に書く (y)が z に出現する y が z に存在する
 d. <行為> →> <変化> →> <結果位置>
 行為者 x が対象(y)
 を場所 z に作る (y)が z に出現する y が z に存在する

上記の変化動詞の観察から、存在表現と関連づけられる日本語の「てある」構文は結果位置が生じる動詞と共に用いられる

² (9c, d)において(y)は統語的に現れない項を表わす。

と言える。これには設置動詞に代表される位置変化動詞のほか、「書く、作る、塗る」など、一部の状態変化動詞（作成動詞）も含まれる。では、中国語の存在表現における「着」構文にはどんな動詞が用いられるのか、日本語の位置変化動詞と、結果位置が生じる一部の状態変化動詞を中心に比較することにする。

2.2 中国語の「着」構文に用いられる動詞

中国語では存在を表す他動詞が用いられる「着」構文には、代表的な他動詞として、日本語の(7)に似て、動作主が目的語の対象をどこかに移動させ取り付ける「挂(掛ける)、放(掛ける、置く)、摆(並べる)」といった「位置変化動詞」類や、動作主の働きかけによってもともと存在しなかった対象が新たに現れ、そこに存在するといった「写(書く)、刻(刻む)、绣(刺繍する)」のような「状態変化(作成)動詞」類がある。³

(10) a. 位置変化他動詞：

「挂(掛ける)、放(置く)、放入(入れる)、貼(貼る)、摆放(並べる)」など

b. 状態変化他動詞：

「写(書く)、刻(刻む)、绣(刺繍する)、塗(塗る)、搭/架(<橋を>架ける)」など

例文は次のようなものになるが、これらの文の意味と日本語訳は、(12)と(13)を参照されたい。

(11) a. 门口 放着 (一把) 雨伞。

b. 椅子上 涂着 油漆。

これらを、それぞれ位置変化に代表される(11a)の「放(置く)」

³ 中国語学の観点からは「位置変化他動詞」には「穿(着る/はく)、戴(つける)」などの、再帰動詞も含まれるが、日本語の「てある」構文との比較対照を容易にするため、再帰動詞については(14)で扱う。

と、状態変化に代表される(11b)の「塗(塗る)」を例に取り、影山の動詞の行為連鎖でその意味構造を説明する。これらの動詞には、次の<行為><変化><状態>という3つの段階が想定でき、<状態>を示す(c)が「着」構文である。

- (12) a. 某人 在门口 放 (一把)雨伞 <行為>
 だれかが 玄関に 置く (一本の)傘 ↓
 (だれかが玄関に傘を置く)
- b. (一把)雨伞(被) 放(在/到) 门口 <変化>
 (傘が玄関に置かれる) ↓
- c. 门口 放着 (一把)雨伞 <状態>
 (玄関に傘が置いてある)
- (13) a. 某人 在椅子上 塗 油漆 <行為>
 だれかが 椅子に 塗る ペンキ ↓
 (だれかが椅子にペンキを塗る)
- b. 油漆(被) 塗(在/到) 椅子上 <変化>
 (ペンキが椅子に塗られる) ↓
- c. 椅子上 塗着 油漆 <状態>
 (椅子にペンキが塗ってある)

このように、中国語の他動詞の「着」構文の特徴は、他動詞から自動詞への変換として捉えることができる。他動詞の動作主が対象を移動させ、対象が着点に到達した後、その対象がそのまま着点に存在することになり、「着」構文が対象の存在を表す。つまり、移動の方向性を持つ他動詞文から非方向性(存在)の自動詞文への移り変わりである。ちなみに、日本語の「てある」構文についても、同様の記述が可能である。他動詞文の動作主の働きかけによって目的語である対象「を」格が主語の「が」格に変わって主語となり、動作主が「てある」構文で消えることによって他動詞文から自動詞文への転換が実現するのである。つまり、日本語では「てある」構文

が自動化の役割を受け持ち、中国語の「着」自動詞文に対応するという形をとる。

しかし、状態変化他動詞（一部は作成動詞）について、「作る」「建てる」のように日本語では「てある」構文が可能となるのに、中国語の「着」構文にはならない動詞があることは、すでに第1節の(2)(3)で観察した⁴。そして、「位置変化動詞」の中には、逆に、「着」構文は可能だが「てある」構文とはならない「穿(着る/はく)、戴(つける)」のような再帰動詞がある。(14)がその例だが、(15)に、(12)(13)同様に、〈行為〉〈変化〉〈状態〉の過程を示す。

(14) 她身上 穿着 (一件) 红大衣。

(15) a. 她 在身上 穿 (一件) 红大衣。 <行為>
彼女 体に 着る 赤いコート ↓
(彼女は<体に>赤いコートを着る)

b. (一件) 红大衣(被) 穿(在/到) 她身上 <変化>
(*赤いコートが彼女の体に着られる) ↓

c. 她身上 穿<着> (一件) 红大衣 <状態>
(*彼女の体に赤いコートが着てある/着られる)
(彼女は赤いコートを着ている)

さらに、中国語の「着」構文は、日本語との対応が一筋縄ではいかない長期的持続状態の意味を表す「养(飼う)」のような「状态的動詞」にも表れる。(16)のタイプの動詞であり、例文は(17)に挙げる。

⁴ 「作る」「建てる」のような中国語の「着」構文にはならない状態変化他動詞（一部は作成動詞）や、以下で扱う、日本語の「てある」構文にならない動詞については、以下の第3節、第4節で中日動詞の比較対象の観点から考察する。

は、動作の開始の局面「开始养（飼い始める）」があるが、動作の進行中や完了の局面「正在养（飼っているところ）」、「养完（飼い終わる）」を持たず、「养」という行為が完了の結果を表さないからである。その一方、(18b)との関わりで述べたが、「着」を用いて状態を述べることができる。

ところが、(19c)のような「着」構文に対して基本的には日本語の「てある」構文は容認できないと思われる。というのは、日本語の動詞「飼う」は、動詞の意味の観点からは、＜行為＞の意味が基本だからである。しかし、中国語の「养」（飼う）は＜行為＞というより、＜状態＞の意味が強く、「着」と結びつくと静止の状態の持続を表すことになる。この違いは次の節で詳しく述べることにする。

3. 中日両言語に見られる動詞の意味の違い

第1節、第2節で、日中両言語における存在表現の「てある」構文と「着」構文によく使われる動詞を見てきたが、位置変化を表す動詞や、「付着」の意味を表す一部の状態変化動詞「写／書く、塗／塗る」など、対応関係が成立し、共通しているのであるが、「挖／掘る、做／作る、建／建てる」などに用いられる「てある」構文は、「着」構文と対応できないことが分かった。

- (20) a. 机に写真が飾てある。
- b. 桌子上 摆着 照片。
- (21) a. パンに バターが塗てある。
- b. 面包上 涂着 黄油。
- c. 名刺に会社名が印刷してある。
- d. 名片上 印着 公司名。
- (22) a. 玄関にシューズクロゼットが作てある。
- b. *门口 做着 (一个)鞋柜。

- c. 门口 做了 (一个)鞋柜。
- (23) a. 庭に穴が掘ってある。
- b. *院子里 挖着 (一个)洞。
 - c. 院子里 挖了 (一个)洞

繰り返しになるが、上記の例からも分かるように「着」が「てある」と対応関係をなすのは、位置変化を表す「置く」などの設置動詞と一部の「付着」の意を含む状態変化動詞「写／書く、塗／塗る」のみである。

一方「做(作る)、盖/建(建てる)、挖(掘る)」などの状態変化を表す他動詞は、中国語の存在表現「着」構文に馴染まず、動作の「完了」を表すアスペクト助詞「了」、つまり「動詞+了」と対応していることがわかる。

このように、中国語では、同じ結果状態でも、状態の持続を表すかそれとも結果の残存を表すかによって、「着」と「了」が使い分けられるのである。このことから、存在表現の「着」構文と「てある」構文が対応できるのは、位置変化の配置動詞と一部の状態変化動詞に限る。「付着」の意を持たない状態変化動詞の「てある」は、状態持続の「着」と共起せず、完了アスペクトの「了」と対応関係をなす。つまり、状態変化動詞の「てある」構文は基本的に「了」と対応できるということである。言ってみれば日本語の「てある」構文は行為が完了したあとの結果状態の維持と結果の残存の両方とも表わせるため、中国語の「着」と「了」の両方と対応するということになる。そのため、行為の完了に焦点が当てられる作成動詞によって作られた「てある」構文は状態の持続を表す「着」構文と馴染まず、対応関係をなさないのである。

また、中国語の再帰動詞に相当する「穿(着る)、戴(つける)」類も日本語と同様にアスペクト助詞「着」が後接すると動作の持続と結果の持続の両方の意味が表せ、よく「着」構

文に現れるのに対し、「てある」構文に使えない日本語の「着る」のような再帰動詞とは、対照的である。

- (24) a. 他头上 戴着 (一頂)帽子。
b. *彼の頭に帽子がかぶってある。
c. ?彼の頭に帽子をかぶっている。
d. 彼は(頭に)帽子をかぶっている。

一般に中国語の再帰動詞によって表される「着」構文においては、身体部位を表すものが場所句にあたる。(24)の中国語「着」構文と対応する日本語の形式がない。なぜかという点、再帰動詞がその動作を行う人自体の変化を表すことはないからである。つまり、主語の着衣をする人の変化結果に焦点があてられ、主体変化の結果持続と捉えられるので「ている」形が用いられるのである。

さらには、中国語では、「养(飼う)种(庄稼)(作物を作る)」のような動詞は、長期的持続状態の意味を有するため、状態の持続を意味する「着」構文にもよく現れるが、これに対して、日本語の「飼う」や「(作物を)作る」は、<状態>の意味というより、<行為>の意味概念のみであるため、「てある」構文として使えない。

- (25) a. 院子里 养着 狗。
*庭に犬が飼ってある。
b. 茶园里 种着 茶叶。
*茶畑にお茶が作ってある。

ただし、前述の(19c)の「魚を飼う」に対する場合は、「てある」構文として容認できる。両者の違いは目的語にある。つまり「魚を飼う」と「犬を飼う」は同じ動詞「飼う」でも表す事態が違ってくるのである。「魚を飼う」場合は「魚の存在が池から動かないし、動きが少ないので存在を強調しやすい」

のとは対照的に、「犬を飼う」場合は動作の意味が強い。この観察からすると、動詞の意味を考えると、単に「動詞」だけでなく「動詞と目的語」(つまり、動詞句全体)も合わせて、「存在の含意」を考える必要があることを示していると言えらるだろう。

4. 「着」構文と「てある」構文のまとめ

以上述べてきたことをまとめてみると、存在表現における「着」構文と「てある」構文はどちらも、行為の結果としての対象の存在の状態を記述する「場面描写文」という性格が両言語に共通した構文特徴と言える。ただ、両者の違いと例えば、中国語の「着」構文は、存在主体がどのような状態にあるかを描写することに焦点が置かれるのに対し、日本語の「てある」構文は、人の行為的意図性による行為の結果に焦点を当てるのが挙げられる。存在表現に基づく「着」構文と「てある」構文の対応関係についてまとめてみると、次の(26)のようになるだろう。

(26) 「着」構文と「てある」構文の対応関係

両言語の構文形式		両言語の動詞意味		
		着	てある	着／てある
位置変化(挂/掛ける、放/置く)		○	○	着⇔てある
状態 変化	(写/書く、涂/塗る)	○	○	着⇔てある
	(做/作る、建/建てる)	×	○	着≠てある
	(穿/着る、戴/つける)	○	×	着≠てある
長期的状態持続 (养/飼う、种/作る)		○	×	着≠てある

(26)からも分かるように、存在表現の「着」構文と「てある」構文が対応できるのは、両言語の位置変化動詞と「付着」の意をもつ一部の状態変化動詞に限る。「付着」の意を持たない状態変化動詞の「てある」構文は、状態持続の「着」と対応せず、完了アスペクトの「了」と対応関係をなしているのである。なお、中国語では「穿（着る/はく）」のような再帰動詞は「着」構文に生起できるのに対して、日本語の「てある」構文には使えない。

また、〈状態〉の意味として使われる中国語動詞の「养」は、「着」構文によく馴染むのに対し、日本語の「飼う」は、普通「てある」構文に現れない。ただ、「魚を飼う」と、「犬を飼う」とでは、同じ「飼う」動詞にもかかわらず、表される事態が違うため、〈行為〉と〈状態〉の意味が使い分けられている。このことから、動詞の意味構造を考察する際に、単に「動詞が結果を含意するか否か」だけでなく、「動詞と目的語」（より正確には、動詞句内の要素）を合わせて「存在の含意」を考える必要があると思われる。

参考文献

- 荒川清秀. 1985. 「“着” と動詞の類」『中国語』306:30-33.
影山太郎. 1996. 『動詞意味論』くろしお出版.
影山太郎. 2001. 『動詞の意味と構文』大修館書店.
影山太郎. 2009. 『形容詞・副詞の意味と構文』大修館書店.
工藤真由美. 1995. 『アスペクト・テンス体系とテキスト—現代日本語の時間の表現—』ひつじ書房.
范方莲. 1963. 「存在句」『中国语文』5: 386-395.
李臨定. 1986. 『現代汉语句型』商务印书馆.
李臨定(著) 宮田一郎(訳). 1993. 『中国語文法概論』光生館.

- 聂文龙. 1989. 「存在和存在句的分类」『中国语文』2: 95-104.
- 宋玉柱. 1995. 『语法论稿』北京语言学院出版社.
- 朱德熙(著) 杉村博文・木村英樹(訳). 1995. 『「文法講義」—朱德熙教授の中国語文法要説』白帝社[朱德熙(1982)『语法讲义』商务印书馆]

201620

上海市松江区文翔路 1900 号

上海对外貿易学院

国際ビジネス外国語学部 日本語学科

zhengtxy@hotmail.com